

文部科学省選定 広島文化学園 研究ブランディング事業

令和元年 第4回認知症カフェ「あがりんさい」

テーマ 学生と共にソフト食を学びましょう

1. 日 時：令和元年8月18日（日）10：00～12：30 オープンキャンパス同時開催
2. 場 所：広島文化学園大学看護学部 調理実習室
3. 講 義：高齢者の食事 高齢者ソフト食
4. 講 師：管理栄養士 環境カウンセラー 湯川和子先生
5. カフェプログラム

9時30分 受付、血圧測定 受付：有田・金川・辻・西畑・大羽

司会 挨拶認知症看護強化科目履修生 古川・福田・福田・櫛部・原田・柳井

10時 広島文化学園大学対人援助センターHBG 看護カフェ責任者 土肥敏博

10時10分 高齢者の食事 ソフト食の講義と調理実習

献 立：二色どんぶり ひき割り納豆のとろろ和え やき茄子の味噌汁

2テーブル：大石・志垣・吉川（高校生） 3テーブル：山口・森脇

5テーブル：川本・三輪・辻・瀬尾（高校生）

6テーブル：西村・櫛部・赤枝（高校生） 7テーブル：川島・山田・山田

11時00分 休憩 お茶の時間

11時30分 ソフト食試食 オープンキャンパス高校生及び保護者交流

12時 お茶と談話

12時15分 各テーブル調理体験の発表

12時30分 挨拶 カフェ「あがりんさい」副責任者 加藤重子

13時 午後からあがりんさい参加の方への 説明と試食

4. 参加者

地域の皆様 24名、清水ヶ丘高等学校 生徒3名

見学者 高校生3名・保護者2名

認知症看護強化科目履修者 3年生6名、4年生1名

広島文化学園大学看護学部 4年生8名、2年生2名

教員 教授 土肥敏博、学部長 山内京子 教授 加藤重子、准教授 林君江、

准教授 進藤美樹、講師 風間栄子、講師 岡田京子 7名

6. 認知症カフェあがりんさいの様子

「食べ物の呑み込みが悪くなっても最期まで口から食べる」ことは、誰もの願いです。「学生と共にソフト食を学びましょう！」をテーマに管理栄養士の湯川先生より講義を受けました。内容は、介護食の条件、献立が単調にならないように、ソフト食の適応、誤嚥しやすい食品・形態、ソフト食の特徴、ソフト食の基本、つなぎになる食材、ソフトごはんなどわかりやすい講義資料と本日のレシピを作成していただきました。地域でのソフト食の公開講座は、毎年行っており、新老人の会のメンバーは、数回参加されています。

毎回、学生も参加者もはじめてのレシピに興味津々です。

今回の認知症カフェあがりんさいは、先月に引き続き清水ヶ丘高等学校から 3 人のボランティア生徒さんが参加してくれました。参加者の年齢は、10 代から 80 代まで、64 歳差、昭和・平成・令和の時代を生き抜いた地域の人々から世代を超えて調理のノウハウを伝授していただきながら、楽しい時間を過ごしました。西延崎のプラチナクラブ会長で本あがりんさいの認定する認知症サポーターの小田様より調理実習用のキャップ 20 枚の寄付もあり早速、被らせていただきました。

今回は、「これ、持ってきたよ！」と入口のところからエプロン見せてくださり、男性陣の活躍ぶりには目を見張るものがありました。

試食後は各テーブルから感想を発表しあいました。湯川先生への「ソフト食にもち麦を入れたらどうでしょうか？」など質問があり、「良い事だと思います。ぜひ継続してください」と回答された。4 年生の代表として認知症看護強化科目履修者で保健師コースの森脇さんが「楽しく話をしながらあっという間の時間でした。食材にひと手間かけるだけで家族みんなが安心して食事をする事ができるソフト食をこれからも続けてみなさん健康でいてください。まだまだ暑い日が続きますので、お体には十分にお気をつけてください。貴重な時間を頂きありがとうございました。」と感想を述べました。清水ヶ丘高等学校の生徒さんも「ソフト食について知ることができ皆さんと楽しい時間を過ごさせていただきありがとうございました。」と感想を述べました。

今回のカフェは、認知症看護強化コースの 3 年生が司会進行から運営を行いました。

写真で見る。認知症カフェ第 4 回「あがりんさい」の様子



学生 18 名生・高校生 3 名教員 5 名 賑やかに勢ぞろい。

いつも始まりは、看護・医療・福祉部門責任者 土肥敏博教授の真剣で、ユーモアと人間味あふれるご挨拶から。



管理栄養士 湯川和子先生による高齢者の食事、高齢者ソフト食の講義 素敵なスマイル



認知症看護強化コース 3年生櫛部リーダー小田さん手作りキャップを被って。真剣に見守るサポーター平岡氏と初参加の皆さん



あがりんさいサポーター 浜崎さん、小田さん、高校生の瀬尾さん手際よく役割を果たします。男子学生も皆がやりやすいようにレシピを読み上げます。3品に使う「いりこ」だしがたっぷりわいています。



あがりんさいサポーター平岡さん2人のアシスタントは、高校生赤枝さん。「高校生の参加は、大いに歓迎」



あがりんさいサポーター水野さんご夫婦で1品、「もう、えかろう」「そうよのう」と仲むつまじい会話が聞こえてきそうです。



あちこちのテーブルで楽しい時間が流れています。高校生の吉川さんもしっかり役割を務めています。みな初めてのレシピに取り組み、各テーブルそれぞれの味に仕上がっていきます。



11時で、休憩とらな。ちょっとお座りなさい。



ちゃんとお茶してますよ！大丈夫。



令和になって西新開の新老人クラブ会長「調理実習は初めての参加で、世代を超えて楽しい時間を過ごさせていただきました。」



オープンキャンパスに来られた高校生にアガデミアやカフェの説明をされる吉良会長と初めて参加の地域の方



前期を締めくくって、3年生認知症看護強化コース学生 榎部さん、福田さんがご挨拶をしました。2年次後期にはじめて、あがりんさいに参加者として参加し阿賀鬼さんに交じって平岡さん2名、浜崎さんと一緒に本日司会の福田さん2名が鬼さん役を引き受けました。3年次は、企画運営を5月、6月、7月、8月と実施し出張カフェは、本日参加のプラチナクラブの七夕会の運営をしました。ずいぶん、対人援助力、企画・運営力がついてきました。参加者の皆様も成長ぶりを見守ってくださいました。吉良さん自治会長夫妻も、微笑んで耳を傾けておられます。あがりんさい終了後もオープンキャンパスに参加した高校生にあがりんさいや看護学部の良さを紹介してくださいました。

7. アンケート結果

属性

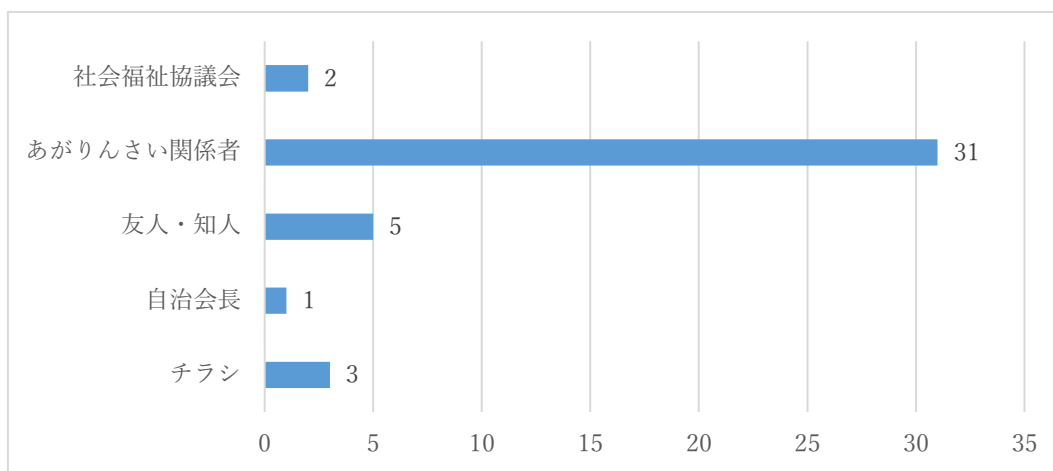
回答者 地域住民 21 名、高校生 3 名、大学生 16 名(4 年 8 名、3 年 6 名、2 年 2 名)

性別 女性 33 名 男性 7 名

年齢構成 15~19 歳 4 名 20~30 歳 15 名、60~64 歳 1、65~74 歳 11 名、75~84 歳 9 名

1. 今回の事業は、どの方法で知りましたか。

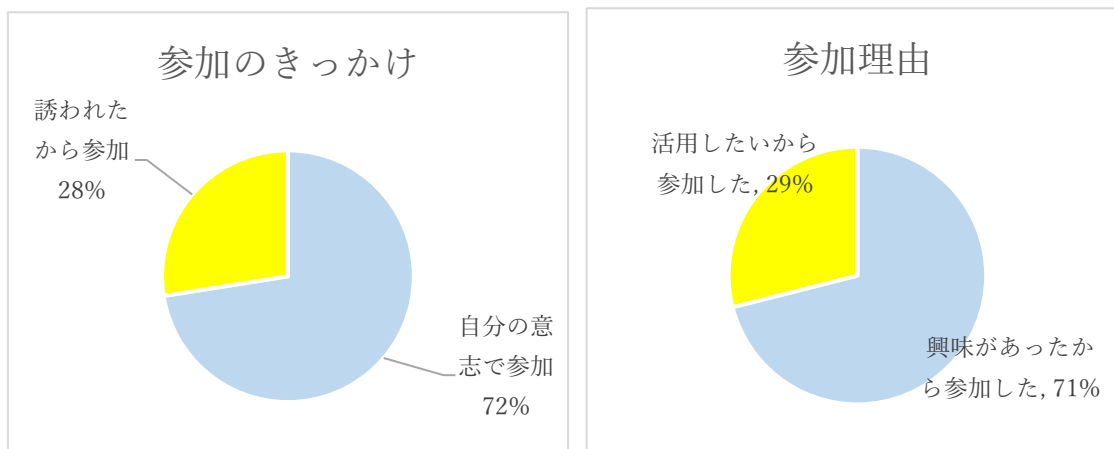
参加者の 7 割以上があがりんさい関係者と回答、友人知人が5名、社会福祉協議会からの紹介が2名、自治会長からの紹介が1名いた。



2. 参加のきっかけ、参加理由

認知症カフェあがりんさい主催の高齢者ソフト食の講義と調理実習、試食会への参加のきっかけは、自分の意志で参加が 72%誘われたから参加が 28%であった。

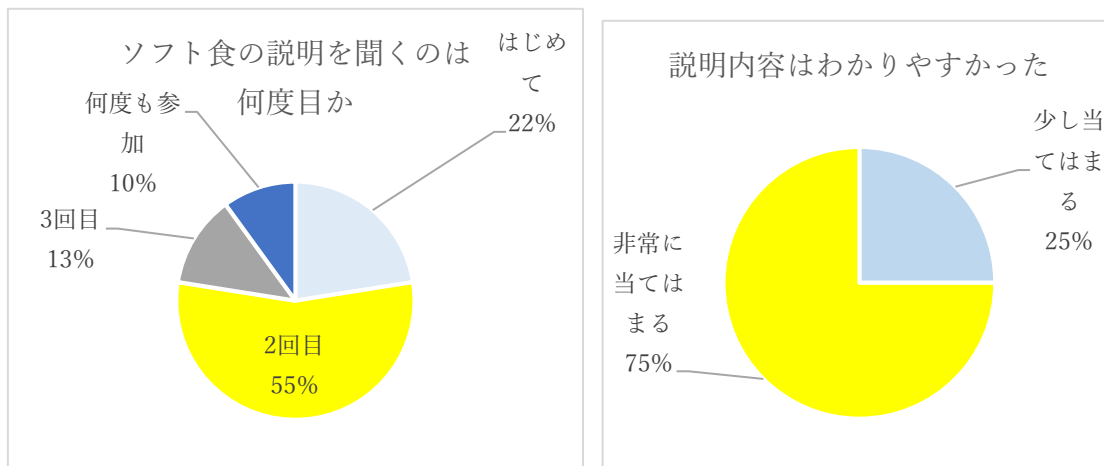
参加理由は、興味があったから 71%、活用したいから参加したが 29%であった。



3. ソフト食の説明について

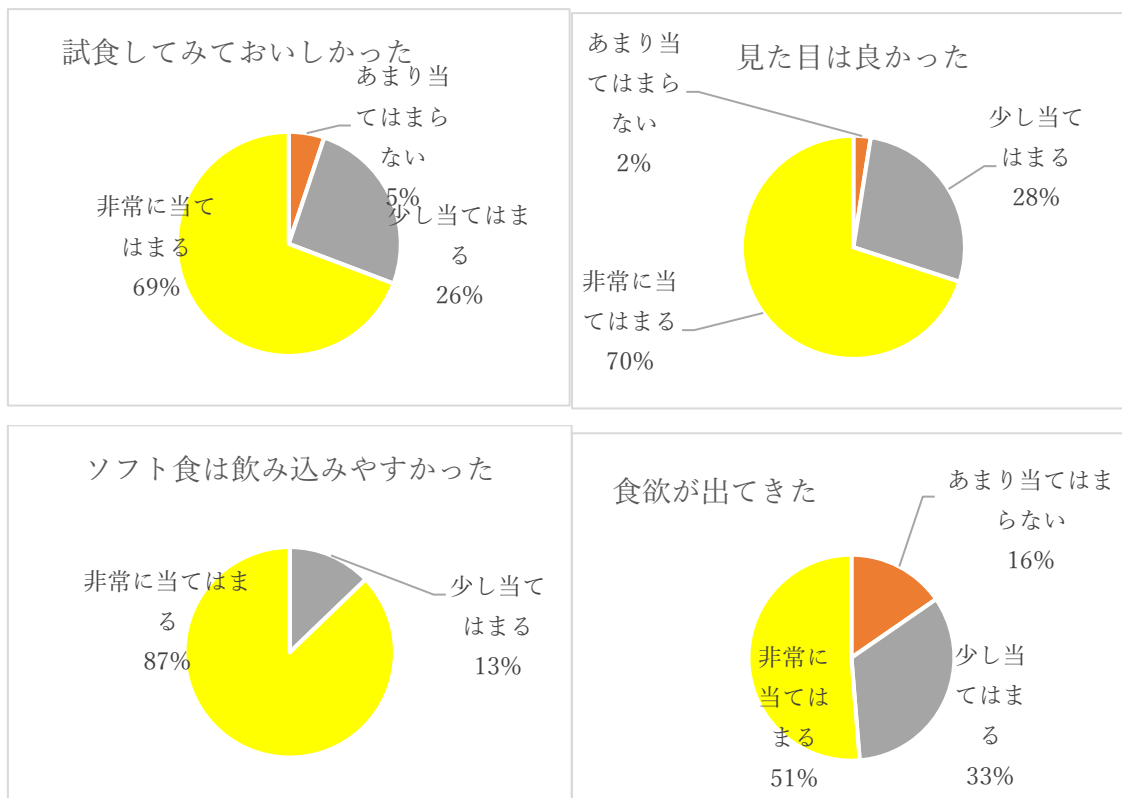
今回、初めて聞くが 22%、2 回目が 55%、3 回目 13%、何度も参加して聞いている人は 10%であった。

「説明内容が分かりやすかった」については、非常に当てはまる 75%、少し当てはまる 25%であった。



4. ソフト食の試食体験について

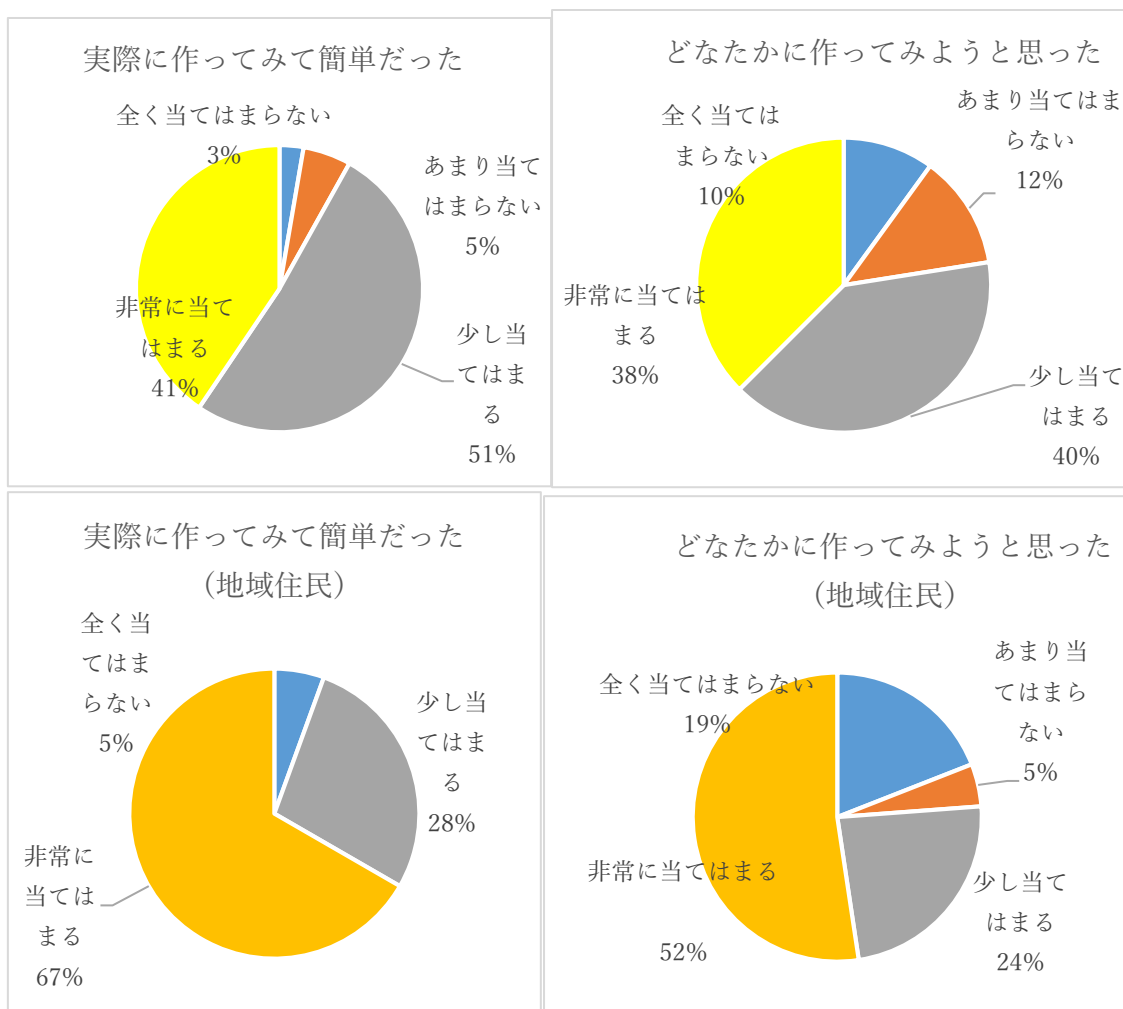
「試食してみておいしかった」については、非常に当てはまる 69%、少し当てはまる 26%、あまり当てはまらない 5%であった。「ソフト食の見た目は良かった」については、非常に当てはまる 70%、少し当てはまる 28%、あまり当てはまらない 2%であった。



「ソフト食は、飲み込みやすかった」は、非常に当てはまる 87%、少し当てはまる 13%であった。「食欲が出てきた」については、非常に当てはまる 51%、少し当てはまる 33%、あまりあてはまらない 16%であった。

「実際に作ってみて簡単だった」については、非常に当てはまる 41%、少し当てはまる 51%、あまり当てはまらない 5%、全く当てはまらない 3%であった。高校生・大学生の場合は、非常に当てはまる 16%、少し当てはまる 74%、あまり当てはまらない 10%であった。地域住民では、非常に当てはまる 67%、少し当てはまる 28%と調理経験の差が表れていた。

「どなたかに作ってみようと思った」については、非常に当てはまる 38%、少し当てはまる 40%、あまり当てはまらない 12%、全く当てはまらない 10%であった。高校生・大学生の場合は、非常に当てはまる 21%、少し当てはまる 58%、あまり当てはまらない 21%であった。地域住民では、非常に当てはまる 58%、少し当てはまる 24%、あまり当てはまらない 5%、全く当てはまらない 19%であった。地域住民の場合、高齢者や要介護者の存在が身近にいることがソフト食を作ってみようと思う要因の一つと考えられる。



5. 自由記載

1) 高校生の参加について

頑張って高齢者の方とコミュニケーションをとりながら調理していて良かったです。

高校生にとってもよい機会になったのではないかと思います。

良く参加していた

初々しくてかわいかった、食事を頑張ってくれた
一緒に交流できて楽しかった
大変よい
全ての学生さんとも楽しく接していただきありがたかった
新鮮でよかった
一緒に楽しくできた
非常に良かったと思う
大いに参加してください。
とてもよかったです
高校生のお話も聞けて良かったです
楽しく孫のように一緒にできました。
良い
良い事だと思います。
とてもよい事だと思う
みな良くしてくれました

2)3年生の司会進行について

スムーズに進行していてとてもよかったです。5件
良かった・非常に良かった。3件
上手2件
司会もしっかりできていたと思います
一つ一つの説明がありわかりやすかった
だいたい理解できた
一生懸命が出ていてよかった
高校生大学生共に楽しくて良かった
このテーブルの3年生はとてよくリードしてくださった。

3)4年生、3年生、2年生のグループへの参加について

気軽に話せて良かったです
率先して調理してくださりすごく助かりました
地域の方とお話ができとても有意義な時間となりました。
人数が多いと賑やか
積極的に参加してくれた調理もはかどり楽しくできたので良かった。
良かった、非常に良かったと思う5件
他学年の交流にもつながる2件
どの学年も積極的に参加していた。
グループに先輩がいてくださってやりやすかった
全ての学生さんとも楽しく接していただきありがたかった
若い人の中に入り会話が弾み楽しかった
若い方とご一緒出来て楽しく過ごさせていただきありがとうございました。感謝です。

学生さんとの会話も楽しかったです
手伝いや色々助けてもらってよかったです。
楽しかったです
みな良くしてくれました

4) その他

自分が最後まで食べることに意欲を持つと思いました。また、機会があったら習いたいです。ありがとうございました。

できれば家庭に使っていきたいです。いま、年寄で住んでいるので助かりました。

参考になりました、ありがとうございました。

寝ている人にはよいですか

見た目よりもとてもおいしかった。ごはんにゼリーを入れて炊いてみようと思います。

ソフト食という言葉は聞いたことがあったのですが、初めて皆さんと作ってとても食べやすかったです。ありがとうございました。

すごく噛みやすくて食べやすかったです。

ゼラチンだけでなくとろろこんにゃくも使っておりとてもおいしかったです。

どんぶりごはんかボチャに鶏肉、かぼちゃが卵かけごはんのようでまろやかになり非常においしかった。

美味しく頂きましたありがとうございました。

今回は、何カロリーですか

見た目以上に量があった。味付けが良かった。

味が薄かったように思えなかった、濃かった

若い人と会話しながら楽しかったです

たくさんの記述に見られるように、認知症カフェあがりんさいで調理実習・試食を若い人と一緒にできたことで満足度の高いものとなっている。ソフト食の調理が難易度の高いものでなく身近な食材で家族と同じメニューでできることを体験してもらうことができ、家庭での活用が期待できる。

今後も認知症地域に根差した認知症カフェあがりんさいとして、地域住民の要望に応じていきたい。今後は、地域包括支援センター認知症支援員との連携を構築していきたい。